

第3章 加古川地域と個々の暮らしを考える

～熟慮の成果～

1. 議論のためのウォーミングアップ

熟慮はグループで議論をする前に、まず個人で“熟慮”するところから始まる。簡単に述べれば頭のウォーミングアップである。スポーツをする際のウォーミングアップの重要性は今さら述べる必要はないが、物を考える際にもウォーミングアップは同じように重要である。

近年の認知心理学や脳科学などの認知科学といわれる分野では、私たちがものを考える際に活動する心のステージをワーキングメモリと呼んでいる。ワーキングメモリには目や耳などの感覚器から入力された情報や、すでに頭の中で蓄積された経験や知識といった記憶が呼び込まれ、さまざまな検討が加えられる場所だと考えられる。すなわち、議論において各個人が述べるべきことを述べるためには、ワーキングメモリが十分に活動していなければならない。そのため前もって、本やインターネットなど必要な資料を調べて情報を入力し、これまでの経験や知識を引っ張り出し、ワーキングメモリを準備状態にしておくウォーミングアップは必要なのである。

ここでは、前半は「個人的な幸せとは何か?」「20年後の自分はどうなっているか?」「自分のふるさとの自慢は何か?」「自分のふるさとの将来をどうしたいか?」といった個人の価値観や自分のふるさと意識について問う内容になっている。最初に自分自身のことからウォーミングアップを始めることになり、参加者は比較的回答しやすいものと思われる。後半は、本熟慮での議論のテーマでもある加古川地域の強みと弱みを直接的にたずねている。個人の価値観やふるさと意識を参照しつつ、限定された加古川といった地域の特徴について考えることが求められる。ここで回答された強みや弱みは、グループの議論を展開する上での最初の一步になるものである。事前の熟慮の段階でのワーキングメモリの状態が、グループでの議論のワーキングメモリに引き継がれることになる。

ワーキングメモリはあくまでも個人の知的活動を担うステージであるが、各個人のワーキングメモリが議論の中で十分に活性化することで、グループ全体が大きなワーキングメモリとなることが想像できる。そうなれば情報量や処理能力が個人単位よりも飛躍的にアップし、個人では導くことができなかつた答えが生まれることが期待できる。その成果を生み出すことが熟慮の大きな意味と考えられる。

～ 資料A 事前熟慮メモ (1) 【p102 参照】 から～

(1) あなたは 20 年後どんな生活を送ってみたいですか？

【高校生】からの代表的回答

「クリエイティブな日々を過ごす」「幸せな生活をおくる」「ストレスがない」などの概括的なもの、「開発エンジニア」「海外での仕事」「学芸員職」「公務員」などの職業に関するもの、「結婚」「幸せな家庭」「マイホーム」などの家庭に関するもの、「地域の人たちと協力」「仲のいい人が近くにいる」などの交流に関するものに分けられる

【大学生】からの代表的回答

「有意義な生活」「健康で幸せな生活」「笑顔で生活」などの概括的なもの、「管理栄養士」「養護教諭」などの職業に関するもの、「温かい家庭」「結婚して子供がいる」などの家庭に関するもの、「近所や地域の方と仲良く過ごせる」「友達関係を維持」などの交流に関するもの、「安全で安心できる生活」「子どもを安心して育てられる」などの安全性に関するものに分けられる。

【行政関係者】からの代表的回答

「のんびりと生活を送る」「趣味ざんまい」「時間の流れがゆっくりとしていて、平和な暮らし」などのゆったりとした暮らしに関するもの、「様々な人との積極的な交流」「家族と元気に暮らしたい」などの交流に関するもの、「些細なことに幸せを感じられる」「老後の心配をすることなく生活したい」などのその時々を感じ方に関するものに分けられる。

【民間・市民活動／高齢者大学生からの代表的回答】

「健康でしっかり、元気に過ごしている」「死ぬまで勉強できる幸せと社会と関わりのある生活」「読書、カラオケ、ゴルフ、旅行などの趣味を続ける」などの積極的な活動に関するもの、「静かな環境で平穏な生活」「できるだけ、家族、世間に迷惑をかけないように自立したい」「家族と和気あいあい」などの穏やかな暮らしに関するもの、「今の年齢から 20 年後は考えられない」「東京オリンピックまでは頑張りたい」「若い世代が活躍できる 20 年後」といった 20 年後を考えられないといった意見や次世代を応援するものに分けられる。

高校生と大学生は類似した傾向であり、漠然としたイメージとしての希望から、就職、家庭、地域との交流といったものが挙げられていた。この年代から既に地域への意識を強く持っている生徒や大学生がいる。行政関係者は現役世代であり、現在の忙しさからか、ゆったりとした生活に憧れをもつ者が多い。一方、その時にどのように感じるかといった、状況の受け止め方への関心がみられる。一般参加者

は比較的高齢であり、健康かつ元気で活動したいといった思いが強いようである。なかには、20年後は自分にとっては遠い未来であり、想像できないといった意見も見られた。

(2) あなたは普段どういったときに「幸せ」を感じますか？

【高校生】からの代表的回答

「おいしいものを食べたとき、ねるとき」「わからないものがわかったとき」「趣味に熱中しているとき」「周りの人との関係がうまくいっているとき」「友達といるとき」「家族全員でご飯を食べているとき」「友達・彼氏といるとき」「結果が出せたとき」「人と協力して何かをするとき」「自然と触れ合っているとき」「季節ごとの花や虫を見つけた時」

【大学生】からの代表的回答

「ご飯、あったかいお風呂、友達、家族」「ゆっくり寝られるとき」「バイトの給料が入った時」「自分のミスをカバーしてくれる人がいるとき」「助言をもらうとき」「家に帰った時おかえりと迎えてくれる時」「好きな人と話をしているとき」「友達・彼氏といるとき」「近所の溝や公園を住民の方が掃除してくださる姿を見たとき」「お礼を言われたとき」「悲惨なニュースを見たとき」

【行政関係者】からの代表的回答

「布団に入る時」「おいしいものを食べたとき」「一息ついているとき」「自分の時間をすごしているとき」「家族そろって夕食をとっているとき」「家族と一緒にいるとき」「子どもの笑顔を見たとき」「人と幸せをわかちあうとき」「誰かに助けてもらった時」「何かをやり遂げたとき」「ひとのために何かできたとき」「幸せと言えるまでは達していない」「楽しさと幸せは違い、幸せは相対的なものであるので後から気づく」

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

「三度三度の食事がおいしい」「のんびりするとき」「クラシックを聴く」「自分の好きなことができているとき」「自分の時間をすごしているとき」「たまの旅行」「日々変わらぬ生活が送れたとき」「目標を達成できたとき」「家族と一緒にいるとき」「日常的な会話」「グループでの活動で問題を乗り越え、メンバーが成果を感じたとき」「共感してひとりではないと感じるとき」「ボランティアで成果を出し、次のことを計画するとき」「人の役にたてたとき」「健康体に感謝できるとき」「自分自身の人生観を良くするも悪くするも自分次第」「幸せは自分なりに感じること」

年代によって大きな違いはないと思われる。美味しいものを食べたり、ゆっくり寝たりといった基本的欲求が満たされたときや、趣味などの自分の世界に没頭しているとき、家族や友人と触れ合っているとき、目標を達成したとき、人の役に立てたときなどが共通していた。若い世代では、恋人といるとき

に幸せを感じるという回答がいくらか見られた。年代が上がると「幸せ」とはそもそも何かという疑問や、「幸せ」についての自らの心構えが大切であるといった回答も寄せられた。一人からであったが、「悲惨なニュースを見たとき」という回答は印象深い。自分の幸せを他者との比較から気づくことも多いと思われる。

(3) あなたがお住まいの「ふるさと」自慢をしてください。

【高校生】からの代表的回答

「田や畑が多い」「暖かく天候に恵まれている」「景色が良い」「工業が昔からさかん」「自然と都会がある」「病院がたくさんある」「新快速がとまる」「交通が便利」「住みやすい」「将棋」「イベント」「スポーツが盛ん」「かつめし」「歴史的なものがある」「来年の大河ドラマ」「老人や障害を持つ方にやさしい」「人があたたかい」「近所づきあいがよい」「公民館が多い」「危険な犯罪や災害が少ない」

【大学生】からの代表的回答

「海・山がある」「ため池が多い」「星がきれい」「自然が豊か」「空気がキレイ」「大きな企業がある」「交通の便が良い」「新快速がとまる」「商店街や駅が活性化している」「ご当地グルメ」「日本のへそ」「姫路城」「書写山がある」「地元にある神社を中心にいろいろな行事がある」「レガッタができる」「季節ごとの果物が楽しめる」「高齢者が元気」「福祉が充実」「地域のつながりが強い」「明るく、元気がある」

【行政関係者】からの代表的回答

「海や山や川の自然が豊か」「のどかな田園風景」「田舎でもなく都会でもない」「町域がコンパクト」「神戸や大阪へ1時間以内に行ける」「利便性(商業施設、交通)」「住みやすさ」「特徴的なものはないが、すみやすい」「食べ物」「かつめし」「志方牛」「にくてん」「あなご」「歴史的遺産」「鶴林寺」「ヤマトタケル伝説」「大中遺跡」「文化や伝統の街並みが美しい」「祭りが盛ん」「気候が穏やか」「地元に着愛を持つ人が多い」「大きな災害がない」

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

「山や川」「比較的自然が残されている」「ため池が日本一」「近くに大きなショッピングセンター」「交通の便(姫路・神戸・大阪へ近い)」「自然がある一方、利便性もあり、生活環境が良い」「静かな町で親切」「長閑な町」「加古川は、発展しているようでありあまり変わっていない」「食が豊富で食べ物が美味しい」「伝統」「踊っこまつり」「プロ棋士が5名育っている」「加古川薪能」「謡曲高砂の発祥の地」「美濃部親子文庫」「考古学博物館」「歴史的ロマン」「ヤマトタケルの生誕地」「鶴林寺や教信寺」「古代に大きな駅家があった」「町内の活動に皆が協力的」「大学がある」「マラソン」

年代によって大きな違いはないと思われる。参加者が住んでいる地域にはばらつきがあり、特定の地域が言及されているわけではないが、自然があること、利便性が高いこと、自然と都会の共存による住みよさ、食べ物、歴史的な建造物や人、地域の伝統、人々の元気さや優しさなどを挙げた人が多い。一方で、年代が上がるほど、伝統や歴史的文化財に対してより具体的な記述が多く見られ、地元についての知識が深くなっていることがうかがえる。

(4) あなたは将来どんな「ふるさと」にしたいですか。

【高校生】からの代表的回答

「自然をそのまま残したい」「景観に配慮したふるさと」「人が集まりやすく、産業が盛んで、豊かなふるさと」「今を変えたくない」「たくさんの人と関わることができる」「人の温かさを残しつつグローバルな街」「祭りをもっと活発に」「活気がある」「他地域との交流が良好」「笑顔が多い明るいところ」「若者が多い」「お年寄りも小さな子どもも暮らしやすい場所」「公園でもっと自由に遊べるような街」「安全で安心できる」「帰ってきたとき、懐かしい、ここがいいと思える場所」「みんなが幸せ」

【大学生】からの代表的回答

「自然をあるべき姿で」「海や山 自然を保つ」「緑豊かで空気が美味しい」「働く場所が増える」「経済的に豊か」「車移動が便利」「住みやすい」「地域のつながりがある」「明るく、安心してらせる」「観光地ができて有名な」「地元の特産品を全国に発信できる」「きれいな町」「お年寄りがすごしやすい」「福祉だけでなく、医療がもっと充実している町」「戻ってきたいと思える町」「住んでいるみんなが幸せといえるふるさと」

【行政関係者】からの代表的回答

「豊かな自然が維持され、良好な人付き合い」「すばらしい田園環境を残しつつ、いきいき、なごやか」「都市化はのぞまないが、バランスの良い人口構成」「誰が住んでも住みやすい」「安全、安心な町」「より安全で、より美しい」「地域のみんなで支え合っ対処できる街」「今よりも地域コミュニティが充実」「人口が減少していくなか、今までと変わらず活気のある住みよいまち」「子育てをする世代が住みやすい」「老人や若者が希望をもてるふるさと」

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

「自然と共生し、人のぬくもりが感じられる場所」「働く場所があり、自然もある」「若者が自分らしく働き続ける物づくりの会社ができたらよい」「南北方向の道路の充実」「適当に便利である今の街の継続」「良好なコミュニケーション」「自分たちができることには参加していこうという意志」「コミュニケーションがよりよくなる」「明るくてお互いに支え合う孤独な人がいない町」「一人暮らしの人

たちがより集う場所で、誰もが笑顔で生活できる」「穏やかに過ごせる」「公害がない」「子どもたちが元気で明るく安心安全な町」「高齢者が安心して生活していける」「愛着を感じるふるさと」「自己実現ができる町」

年代によって大きな違いはないと思われる。自然と利便性が共存、活気があり安全、地域におけるコミュニケーションの存在、子どもや高齢者の住みやすさなどが重視されている。そして、そのようなふるさとに、愛着を感じ戻りたいと思えることも大切である。基本として現状を維持しながら、さらに住みよい街にしていきたいという考え方が見られる。新しい何かを創造していくような大きな変化は、どの世代もあまり求めていないようである。

(北島律之)

2. 加古川地域の「強み」と「弱み」

～資料B 事前熟慮メモ(2)【p104参照】から～

「強み」(Strength)、「弱み」(Weakness)は、地域づくりや企業の戦略を考えるための効果的な手法であるSWOT分析の要素として用いられることもあり、地域に関わるワークショップを行う場合などに「強み」「弱み」を議論することは比較的多く行われる。地域についての特徴を明確にすることができるが、反面、参加者の価値判断により、意見が分かれる可能性があることに注意が必要となる。例えば、「自然が豊か」はある参加者には「強み」と映っても、他の参加者には「未開地が多い」という「弱み」になる可能性がある。専門家が行うSWOT分析は、機会(Opportunity)と脅威(Threat)の中で、個々の企業や地域の「強み」を活かし、「弱み」を最小化するための戦略を考え提示する手法であるが、同様に「強み」を活かし、「弱み」を最小化することを多数の参加者のある議論の場で行うためには、その認識の調整に時間を要することになる。「熟議2013 in 兵庫大学」は、兵庫大学の考える熟議手法、つまり熟慮段階が議論段階の前にあることで、自分の考えをまとめる時間を持つことができ、自分の考える地域の「強み」「弱み」を議論段階でも端的に説明すること、つまり認識の調整の時間を最小に抑えることができる。

こうした、議論を進めるにあたり考えを整理することを要する「強み」「弱み」ではあるが、先述のように同じ事象であっても立場により、「強み」と感じるか、「弱み」と認識するかには違いがある。また、全ての人が「強み」や「弱み」と了解する内容は何か。こうした分析は、いわば住民や関係者の目を通して加古川地域の姿を浮き彫りにする方法でもある。

具体的には、「強み」「弱み」の内容についての特徴を明らかにし、また回答者の属性との関係などについても触れる。さらに、それを踏まえ、地域要素に係る視点を提示する。この視点は今後の分析に役

立てるほか、地域の将来や課題を考える上での基点を提供すると考えている。

(1) 全般的な傾向

まず、全般的な傾向を把握するために、「強み」「弱み」の内容を、回答者属性で取りまとめたものが、【表 3-2-1】【表 3-2-2】である。

加古川地域の「強み」について、全ての属性で共通して挙げられていた項目は、「自然が豊かである」「生活しやすい（ベッドタウン）」「利便性がよい」「歴史がある」である。また、「産業が盛ん（働く場が多い）」「地域のつながりが強い」「スポーツ」「施設の充実」などに関する項目もあげられている。それぞれの属性、つまり行政関係者、民間・市民活動／高齢者大学生、高校生、大学生で比較すると、最も多様な意見が見られ、地域を多面的に捉えていたと思われるのは、高校生であることがわかる。

次に、加古川地域の「弱み」であるが、共通する内容は、「(地域に) 特徴がない」「商業（産業）の衰退」、また「交通」「人口や担い手の過疎化」である。「交通」に関しては、南北での利便性の悪さや交通マナーの悪さ、交通事故の多さが共通する内容である。

また「強み」として挙げられていた内容と同じ内容が、「弱み」としても挙げられている。例えば、人口については、人口が多いことが「強み」では挙げられていたが、「弱み」では逆に人口が少ないことが挙げられる。また、利便性についても、利便性のよいことが「強み」で挙げられていたが、「弱み」では交通が不便な点もある。人口集積や利便性の基準が回答者により異なることもあるが、同じ要素が見方によって、あるいは立場により、「強み」「弱み」に分かれることもある。

さて、「強み」同様に、「弱み」でも、最も多様な意見が出ていたのは高校生であるが、民間・市民活動／高齢者大学生も「弱み」が多数挙げられているところを見ると、危機感の表れなのかもしれない。

ところで、行政関係者からはなかった内容で、他の属性から、「弱み」として、治水整備の遅れ、観光資源が少ない、ことが挙げられているが、この点は行政施策とも関連するだけに、市民と行政の意識のずれを修復する必要があるだろう。

行政関係者	民間・市民活動／高齢者大学生	高校生	大学生
水辺空間 気候がよい 自然に恵まれている 平地が広がっている ベッドタウン／利便性がよい 生活しやすい 交通の便がよい スポーツが盛ん 文化環境が充実 工場と資源の調和 映画のロケ地 歴史 ゆるキャラが有名 地域のつながり	自然 人口規模 生活しやすい環境 ベッドタウン／利便性がよい 産業 医療福祉施設の充実 教育環境の充実 スポーツ 歴史 地元愛 市民力 地元のつながり 将来性	自然が豊か 加古川 河川敷の有効利用 水が豊か 人口が多い 若者が多い 生活しやすい まちが清潔 子育てしやすい 健康的なまちづくり 駅が綺麗 利便性がよい 工業が盛ん 教育文化施設の充実 教育機関の充実 有名産業 商業施設の充実 就労場所が多い 歴史 かつめし イベントが多い 情報発信に力を入れている たくさんの特徴がある 治安がよい 人が優しい 地域組織が活発 地域の活性化に努めている 地域のつながりがつよい 地域の祭りが活発	自然 人口規模 出生率が高い 幅広い年齢 ベッドタウン／利便性がよい 生活しやすい環境 医療機関が充実 教育環境 清潔 働く場がある 若者が楽しめる場がある スポーツイベント 名物 歴史 地域のつながり 高齢者の健康意識が高い

表 3-2-1 属性別「強み」一覧

行政関係者	民間・市民活動／高齢者大学生	高校生	大学生
特徴がない ブランド力が低い シンボルがない PR 不足 地域毎に人口のばらつきがある 近隣とのつながりが弱い 地元の商工業の不活性 駅周辺が不活性 産業の衰退 大気汚染 若者が就職できる企業が少ない 東西の交通渋滞 道路が複雑でわかりにくい 南北の交通が不便 車が必要な地域がある 運転マナーが悪い 交通事故が多い 交通犯罪が多い 言葉がきたない 排他的な一面がある 地域への愛着が低い 地域への関心が低い	特徴がない 知名度が低い 魅力が知られていない PR 不足 2市2町の横の連携がとれていない 加古川を活かせていない 地域のつながりが弱い まとまりがない 農業の担い手不足 若年人口の減少 人の流出 駅前の不活性 買い物や遊びの魅力がない 基幹産業の衰退 経済的基盤が脆弱 産業の不活性 観光資源が少ない 町に活気がない 利便性の悪い地域がある 大学が1つしかない 楽しみが少ない 治水整備の遅れ 水質が汚い 大気汚染 南北の交通が不便 交通事故が多い 犯罪が多い 新旧住民の温度差 地域活動の高齢化 地域活動の不活性 地域づくりに無関心な層が多い 教育に関心が低い 核となる意見がない 飽きやすい気質で文化が育っていない 卑屈な仲間意識	特徴がない 知名度が低い 注目性が低い PR 不足 名所がない シンボルがない 地域の交流が少ない 田舎っぽい 人口が少ない 人口増加が少ない 若者があつまらない 過疎と高齢化 商業の不活性化 観光資源が少ない 巨大商業施設がない 図書館が少ない 市民病院の診療科の減少 都市と比較すると不便 利便性が悪い地域がある 大学が1校しかない 自然の減少 治水整備の遅れ 川の汚れ 臨海部の大気汚染 南北の利便性が悪い 交通事故が多い バスの本数が少ない 新幹線が止まらない 自転車や歩行者道路の未整備 レンタル自転車が未充実 事件が多い 治安への不安がある マナーが低い 地域活動に非協力的な人もいる 若者の態度が悪く治安が乱れている 新しい考えを受け容れない 国際化が遅れている	特徴がない 知名度が低い 観光資源が少ない 大都市と比べ活気がない 交流の機会が減っている気がする 過疎化 若者が楽しめる場が少ない 遊ぶところが少ない ショッピングセンターが少ない パチンコ店が多い 商品の品揃えが少ない 街頭が少ない 増水による被害がある(治水整備の遅れ) 不衛生 車がないと不便 交通が不便 渋滞が多い 道路整備が悪い 南北の交通が不便 交通マナーが悪い 放置自転車が多い 自転車事故が多い 交通事故が多い 治安があまりよくない

表 3-2-2 属性別「弱み」一覧

(2)「強み」の特徴

では個別の意見にも注目し、「強み」とされているものを詳細にカテゴリー化し列挙する。

①加古川と水の豊かさ

第一に河川である加古川の存在、さらに関連して水や水源、また加古川を中心としての地域文化やイベントなども挙げられている。加古川は、水のイメージや地域の象徴との位置づけでもある。下記に代表的な回答を示しておく。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 県下最大の河川「加古川」が流れる。
- ・ 地域全体が豊かな「水辺空間」に恵まれている。
- ・ 古来加古川の流れを軸に個性豊かな地域文化を育んできた。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 加古川本流の長さ 96 kmの下流にあって、多くの人々の水源を保っている。
- ・ ため池、川、用水が整備されており水の確保ができています。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 水源がある。
- ・ 「加古川」と言えば県外の人でも人が市内に流れる川を連想するほど、有名な川が流れている。
- ・ 川の周りの環境が整備されている。
- ・ 加古川河川敷にスポーツなど活動できる場がある。

【大学生】からの代表的回答

- ・ 加古川があり水が豊富。
- ・ 水不足に困らない（ダム、加古川）。

②自然環境の豊かさと穏やかな気候

第二には、海に面し、加古川をはじめとする河川、さらに播磨平野を囲む山々と、自然環境の豊かさとともに、瀬戸内海に面し比較的安定した気候に基づく自然災害の少なさを「強み」として挙げている。自然が豊かで、しかし自然災害が少ないことが加古川地域の特徴とされる。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 加古川地域は海と山、川、湖という自然をすべて持ち合わせている。
- ・ 特に、大きな災害が発生することもなく、恵まれた地形環境である。
- ・ 海、山、川の自然に恵まれ、気候も穏やかで過ごしやすい。

- ・ 自然とふれあえる場所の多さ、気象条件など、様々な点において、「住みやすい」といえる地域である。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 気候、風土に恵まれ、安心して暮らせること。
- ・ 自然からの災害を受け難く、日本で一番安全な地域。
- ・ 身近に水辺・山・自然とふれあえる場がある。
- ・ 地形的に平坦で災害にもさしたる不安がない。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 絶滅危惧種の動植物が多く、海や川、池、湿地など多くのフィールドがある。
- ・ 自然が残っている。
- ・ 温暖な気候（瀬戸内海式気候）。

【大学生】からの代表的回答

- ・ 自然が多い。
- ・ 気候が安定している。
- ・ 災害が少ない。

③東西に存する大都会との接続の良さ

第三には、神戸、阪神間との比較的近い立地、さらに交通の利便性によりそれら大都市との接続という点が指摘されている。加古川地域の位置をより広域から考える立場であり、同時にベッドタウンとして、住みやすく、そのため人口が維持できるなどの指摘もあり、これらの特徴の背景を示す内容でもある。また高校生、大学生は新快速が停車することを上げる回答も多く、身近な観点から地域の特徴を捉えようとしている。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 京阪神地区から通勤圏に位置しベッドタウン化することで人口を維持できている。
- ・ 神戸や姫路にもアクセスしやすく、日頃は近所で便利に、たまに神戸や大阪で買い物という使い分けができ、非常に「住みやすい」。
- ・ 交通の便も良く、神戸・大阪へも1時間以内で通うことができる。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 東西方向の道路、交通は整備され、大阪、神戸に1時間程度で移動でき、通学、通勤に便利であるため、阪神地域のベッドタウンとして機能している。

- ・ JR やコミュニティバス等を利用すれば便利に出かけられる。

【高校生】 からの代表的回答

- ・ 兵庫県南部の中央に位置するため、兵庫県内なら日帰りで移動できる。
- ・ 神戸や姫路に近い。
- ・ 新快速が止まる。

【大学生】 からの代表的回答電車の乗り換えが便利。

- ・ 加古川駅には新快速が止まる。
- ・ 東西の交通便が良い（JR、山陽電鉄、加古川バイパス）。

④適切な人口規模

第四には、人口規模が適切であることや適切な人口規模の結果もたらす地域的な特徴も挙げられている。田舎でも都会でもない、という表現がこれにあたる。また人口に関連しては、若年者が多いとの意見もある。確かに、加古川地域を含む東播磨は全県下でも比較的若年者が多く、平成 22 年の国勢調査結果による、15 歳未満人口の割合は、中播磨（14.8%）、阪神北（14.5%）、東播磨（14.2%）の順であり、これを反映したものと思われる。

【行政関係者】 からの代表的回答

- ・ ベッドタウンとして、人口が増えてきた街であり、とても住みよい街である。
- ・ 人口が多すぎないため、街へ出かけて駐車場に困ることもない。
- ・ 田舎すぎず（不便さを感じない）、都会すぎない（騒がしくない）ところ。

【民間・市民活動／高齢者大学生】 からの代表的回答

- ・ 潜在的なポテンシャルという意味では、人口が 268,000 人（加古川市）いること。
- ・ ベッドタウンとして発展している面もあり、若い世代が比較的多い。
- ・ 微増だが人口が増えている。
- ・ 商業施設もある程度ある割に田舎を感じる場所もある。
- ・ 効率的な規模（30 万人）。

【高校生】 からの代表的回答

- ・ 人口がとても多い。
- ・ 若者が多い。
- ・ 適度な田舎感、都会感。

【大学生】 からの代表的回答

- ・ 面積が広く、人口が多い。
- ・ 東には神戸、西には姫路と都市が東西近くにある適度な田舎。
- ・ 合計特殊出生率が高い（子どもが多い）。

⑤産業立地と盛んな経済活動及び集積の存在

第五には、経済活動が盛んであることや学校や公共施設の立地である。経済活動については、製造業が盛んであることと商業集積に触れられている。商業集積や学校など公共施設の立地は、この地が利便性の高いこと、またベッドタウンとしての特徴を有することを示しており、回答者がそれを「強み」と考えている。また人口規模もこれらに影響をするため、前述の適切な人口、比較的多い人口とも関連する点といえる。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 南部地域では工業が発達している。
- ・ 南部の住宅地には大型の商業施設が数店舗あり、生活を送るうえでは便利な環境。
- ・ 陸上競技場、体育館などのスポーツ施設、市民会館やウェルネスパークなどの施設がある。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 明治維新後の近代的産業であった多木化学、日本毛織(株)の他、大真空は水晶を使った電子部品を、ティエルブイはスチームトラップの自動弁を製造している。
- ・ 神戸製鋼所、オークラ輸送機等、独自の製品を開発して大きくなった企業が多い。
- ・ 加古川に「大学」がある事。
- ・ 生活圏としての充実。
- ・ 病院や高齢者介護の施設はほぼ充足している。
- ・ 生活面ではスーパーの競合で食品等の物価が安い。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 高砂や浜の宮に工場地域がある。
- ・ 地域の産業（靴下など）。
- ・ 学校がたくさんある。高校が多い。
- ・ 図書館、公民館などの公共施設が近辺より多い。

【大学生】からの代表的回答

- ・ 神戸製鋼所加古川製鉄所がある。
- ・ 近くに店が密集しているため便利。
- ・ 医療機関が充実しており、保健活動も活発。

- ・ 物価が安い。スーパーやホームセンターが多い。
- ・ 兵庫大学がある。

⑥文化・歴史的な蓄積

第六には、文化や歴史的資源の存在、またイベントなどの活動が盛んとの指摘もある。播磨地域は古来より豊かな地域であり、万葉集や播磨国風土記など古来からの記述にもみられる地域である。また歴史的蓄積以外にイベントについても触れられており、ハード面での施設のみならず、ソフトについても地域で「強み」とされている。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 歴史や伝統のある美しい町。(石の宝殿や鶴林寺など、歴史的にもはやくから開けていた土地)
- ・ 映画のロケ地として使われている。
- ・ 加古川マラソンやツーデーマーチ、踊っこまつりなど、大きなイベントが開催される。
- ・ 播磨国の中心として栄えた歴史があり、相応の歴史的な遺産や、文化的景観を域内各地で見ることができる。
- ・ 「ため池群」などは、長い歴史があるからこそ、他の地域に見られない文化がある。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 古い歴史がある。教信寺、太子堂。
- ・ 古墳前期の古墳が5基も日岡にありその後西条や平荘湖へと移っていく全国でも珍しい長く続くエリア。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 大河ドラマ。ツーデーマーチなどの地域行事。
- ・ 夏には加古川花火大会があつて、秋にはツーデーマーチがある。
- ・ 鶴林寺がある。

【大学生】からの代表的回答

- ・ 国宝である鶴林寺がある。
- ・ 黒田官兵衛の妻、光（てる）のゆかりの地。

⑦コミュニティの強さ

第七には、人と人のつながりやコミュニティ意識の強さなどである。都会すぎない、という「強み」の一つの背景とも思われる。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 昔ながらの人付き合いがある（濃すぎない）。
- ・ 周りにどんな人が住んでいるのか何があったのか地域の情報が口コミで伝わってくる（農村地域）。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 他のまちに比べてコミュニティが残っている。
- ・ 町内会の組織。加入率が同規模の他市に比べると高いといわれる。
- ・ 加古川の市民の人々は、皆加古川の町を大切に思い大好き。
- ・ 地域との共生がふるさとをつくる「強み」。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 加古川を活発にしよう、盛り上げようとする人が多い。
- ・ 近所づきあいがある。
- ・ 子ども会の活動が活発。

このように、「強み」としては、地理的な特徴としてある、穏やかな気候であり、河川など水資源や自然に恵まれ、同時に都市部に挟まれた立地からの利便性や産業や各種施設などの都市的な機能の集積、生活の利便性が指摘されている。田舎すぎず、都会すぎない、という表現、あるいはその結果として住みやすい、との回答が的を射ているといえる。さらに歴史的な集積や人のつながりやコミュニティの強さなど、ソフト面でも「強み」が指摘される。

(3)「弱み」の特徴

次に、「弱み」とされているものを、同じくカテゴリーにまとめ示す。

①アピール力の弱さ

第一に、特徴がないことからの地域の持つアピール力の低さ、さらにそれに起因する知名度の低さが指摘される。観光地が少ない、名物となるものがない、など物理的な内容を挙げるケースも多い。また実は魅力はあっても、それらを効果的に発信していない、という点も指摘されている。姫路や神戸などブランド力、発信力のある地域に囲まれ、埋没しているとの危機感でもある。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ かつめしなどの名物の知名度が低い。
- ・ 都市としてのブランド力が弱い。
- ・ 他地域にアピールできるような、特色が無い。
- ・ 大多数の住民は「この地域には取り立てて何かあるわけではない」との認識を持つ。
- ・ 魅力は様々あるが、それらについての発信、浸透がまだまだ進んでいない

- ・ 姫路や神戸に比べて、シンボリックなものが少ない。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 人に自慢する特徴が無い。
- ・ 一級河川が生かせていない。
- ・ 魅力的な観光資源が少ない。
- ・ 街を説明するのに神戸と姫路の間という程、誰もが知っているものがない。
- ・ 姫路や明石にはさまれて少々のイベントも広がることなく宣伝が難しい。
- ・ 加古川は「何もない」と思う人が多い。
- ・ 姫路や神戸などと比べ今一つ知名度が低い。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 観光地として目玉となるものが鶴林寺しかない。
- ・ これといった名物がない→加古川地域の良さが伝わりにくい。
- ・ 有名なものが県や日本単位ではまだまだ知られていない。

【大学生】からの代表的回答

- ・ 地味。ぱっとするものがない。
- ・ 観光地が少ない。
- ・ 文化を発信できていない。

②地域の中心性やまとまりを欠く

第二に、地域的なまとまりが十分ではないことや、地域内のアンバランスである。地域のまとまりについては、例えば、効率性を重視し人口を基準に行政界を定めたため、課題も生じた平成の大合併と同様に、加古川地域として挙げた、東播磨の二市二町においても、それぞれ歴史的な成り立ちや特徴、人口規模が異なり、そもそも一体的なイメージを持ちにくい。かつてであれば、河川の上流、下流として、三木市、小野市など北部地域を含めての構造も存在しえたが、現在はそれら北播磨の地域は、高速道路により、直接大阪と結ばれる構造となっている。この点、次にも触れるが、地域内交通網の欠如により、中心性が存在しないことにも影響する。さらに加古川市のように、沿海地域から丘陵、山地まで有する場合は、同じ市内であっても経済的、産業面、人口集積で違いが大きく、まとまりを欠くように見られる。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 東播磨の中核都市という意識におぼれて、足元にある大切なものを見失っている。
- ・ 他地域（加古川以外の近隣）とのつながりが弱い。

- ・ 明石や阪神地域、姫路との比較の中で埋もれてしまう。
- ・ 加古川市では南部の人口は増加する一方、北部では過疎化し、人口の二極化が進む。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 商業圏が外に取られやすい。
- ・ 住環境として恵まれている地域は沿岸部のみ。
- ・ 横の連携がうまく取れていない。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 過疎、過密化→小学校でクラス数が増えすぎたり、学年の人数が減りすぎたりしている。
- ・ 地域同士の交流が少ない。

【大学生】からの代表的回答

- ・ 地域によってばらつきが多い。

③交通網の弱さ

第三に、交通網の弱さである。「強み」では東西の交通網が強いことに触れたが、これは広く、大阪から姫路にかけての、大阪湾ベイエリアにおける連坦都市構造の一端を担うことであり、裏を返せば、加古川地域内での交通網や南北交通の「弱み」となって現れる。前述の地域内のまとまりを欠くこととも関連するが、地理的構造においても中心となる地域から交通網が四方に伸び、結末点に準中心となる市街地があるというものではなく、各地に小規模の中心集積地が存する構造であり、しかしそれらを結ぶ交通網が形成されていないため、中心性が弱く、結果、域内移動が個別手段に依存することとなり、交通網の弱さにつながる。特に、高校生、大学生は（公共）交通手段の少なさを挙げ、自動車に依存していると気づかない面を指摘している。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 東播磨南北道路の整備が進められるが、南北の交通網がまだ弱い。
- ・ 自家用車での移動が必要な場所も多い。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 南北方向の道路、交通には問題が多い。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 交通手段（バスなど）が少ない。
- ・ 南北の公共交通機関のアクセスが悪い。

【大学生】からの代表的回答

- ・ 南北の交通便があまり良くない。
- ・ 中心地から離れると交通の便が悪い。

④高い犯罪発生率・事故発生率

第四に、犯罪率の高さ、交通事故の多さである。高校生、大学生では複数の参加者がそれを指摘しており、防犯等に対し意識が高いことがわかる。ちなみに、兵庫県警によると街頭犯罪・侵入犯罪の認知件数では加古川市、高砂市、播磨町では自転車の盗難が圧倒的に多く、被害に遭った、あるいは周囲に被害に遭ったという参加者もあるかもしれない。さらに街灯不足や自転車マナーの問題など、事件、事故につながる可能性のある要因も挙げられている。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 犯罪の発生率・交通事故の発生率が多い（加古川市の人口1人当たり犯罪の発生件数は神戸市、尼崎市に次ぐ）。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 交通事故の発生件数が多い。
- ・ 犯罪が多い。（規範を守る意識が少ない？）

【高校生】からの代表的回答

- ・ 治安が不安な部分もある。
- ・ 事件が多い。
- ・ 交通事故発生件数が県に比べどの市も多い。
- ・ 夜遅くに叫んでいる人がいてうるさい。

【大学生】からの代表的回答

- ・ 治安があまりよくない。
- ・ 安全面で危険だと思う箇所がまだまだたくさんある。
- ・ 大きな道路からはずれるとあまりにも街灯が少ない。
- ・ 自転車利用のマナーが悪く、放置自転車が増えている。
- ・ 深夜、バイクの音がうるさい。

⑤経済活力への将来不安

第五に、経済活動や産業立地への将来不安が挙げられる。臨海部工業地域に依存する経済であること

から、経済変動により地域経済への影響が大きい。一方で、ダイナミックに産業構造が変化する兆しが見えず、駅前など衰退も目につくため、不安も大きくなっている。ただし、高校生、大学生にはあまりその指摘はなく、製造業依存の意識は小さいのかもしれない。

【行政関係者】からの代表的回答

- ・ 地元の商工業の見なおしが必要。
- ・ 就職できる企業が少ない。
- ・ 特定の産業に依存しており、衰退により地域の活力が低下する。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ 基幹産業の衰退でそれに替わる優良企業の誘致が滞っている。
- ・ 臨海部に位置する神戸製鋼所への依存が圧倒的に高く、他の産業が育っていない。
- ・ 街や駅前の活力が失われている。
- ・ 企業城下町なので製造業の影響を直に受けてしまう。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 商店街が暗くなってきている。

⑥地域づくりへの人的な面での不利

第六に、地域づくりへの人的な側面での不安や不利の指摘である。リーダーシップの不足や自立心の弱さなどが含まれる。

【民間・市民活動／高齢者大学生】からの代表的回答

- ・ ボランティア達と共存共栄したり、市民の力を認めることがない。
- ・ 他からの意見に流れやすい。
- ・ どのように改善していけば良いのかも自分達で考えなければならない。
- ・ 元々の住民と新しい住民との温度差がある。
- ・ 突出しようとするリーダーを嫌う気質がある一方、強いリーダーに意見を言わない。
- ・ 地域活動と行政の連携や支援制度が不十分である。

【高校生】からの代表的回答

- ・ 地域の人たちと協力する人もいるが、協力しない人もいる点。
- ・ 若者が集まらない。

【大学生】からの代表的回答

- ・ 近所付き合いが減っている気がする。

このように、「弱み」は、加古川地域というエリアを想定した場合、そのまとまりや地域構造に「弱み」のあることがわかる。地域内の各地には良い資源があるが、加古川エリアとした場合の訴求力の低さが指摘される。さらに経済的な立地の特性と変化が不十分であることからの活力の低下、また人的資源の問題から、将来のまちの衰退や地域の活力低下への不安の要素が大きいことも特徴といえる。犯罪や交通事故の多発は、体感治安の悪さの背景となっているが、回答ではマナーや市民の行動からその要因を示す記載もある。ベッドタウンで住みやすいところであるがゆえの、課題と捉えられる。

(4) 加古川地域の特徴から見られる地域要素の視点

以上の分析を踏まえ、加古川地域の特徴に関する地域要素の視点を提供する。分析の視点とは、地理的な要素でもあって、「強み」「弱み」の要因となるものである。そのためその視点の提示は、地域の価値を計測することや将来に係る予想などにも活用できると考えている。また、議論の段階での位置付けを考える上でも重要となるだろう。

第一に、「地域構造の視点」を提示する。地域構造には、その地形や存する自然などの環境と、相対的な位置関係を含めて形成される地理構造の要素がある。前者は、特に県下最大の一級河川を擁するという加古川地域独自の特徴を含め、気候なども含め、その地域たらしめ、特徴とする上で欠かすことができない視点である。環境を人々がどのように捉えているかは、例えば「強み」では自然の豊かさや加古川の存在などに表れている。

後者の、加古川地域の地理構造を考える場合、より広域、つまり関西都市圏や兵庫県における位置関係から捉えられる特徴も影響する。そのためか加古川地域では、大阪からの連坦する都市圏にあって、地域内での中心性の存在は小さく、階層性を成すこともないため地域全体の特徴を捉えにくくしている。一方で、この地理構造の「強み」は、大きな都市圏に連なることの、交通や経済活動での利便性として指摘され、逆に「弱み」は、そのため埋没することへの懸念や中心性を欠くため地域内の交通の不便さに表れている。

第二に、「集積の視点」を挙げることができる。集積としては人口があり、これらは人口規模として取り上げられる。人口の過疎過密の問題は、戦後日本の均衡ある国土発展における主要なテーマであったが、加古川地域では、少なくとも回答者は「強み」に判断をしている。極端に過疎でもなく、逆に過密ゆえの問題も小さいと考えられている。しかし、回答者は現在の集積を、将来においてその集積の維持が困難であること、変化の難しさに懸念も持っている。人口集積は生活関連施設や教育機関などの集積とも関係する他、なぜ人口が集積をするのか、という集積の要因とも関連する。例えば、高校生や大学生は生活関連施設の集積を、また行政関係者や民間・市民活動／高齢者大学の関係者は、産業集積を「強み」と捉えており、この点は製造業の集積により人口が拡大した時代、ベッドタウンとして人口が拡大した時代を反映し、世代による集積の捉え方の相違があったといえる。

第三は、「無形の社会資本の視点」である。無形の社会資本を的確に評価することは地域の魅力や競争力の側面で重要な視点とされる。この視点は3つの内容にわけることができる。まずは歴史で、古代か

ら現在までの歴史的な遺産の継承について多くの回答者は「強み」としているように、これは畿内に続く播磨の地としての加古川地域の特徴である。次に、現代における無形の社会資本としてのイベントも挙げる事ができる。イベントは集客を促すだけではなく地域のアイデンティティとも関わる事である。これらも回答者は「強み」としている。最後が社会的関係資本（ソーシャルキャピタル）である。人々のつながりや関わり、互恵性、あるいはコミュニティの親密さなどがあり、「強み」としてしっかりとしたコミュニティの存在が挙げられるが、一方で、広いエリアでの協力の不足やそれらを活かすことを難しくするリーダーシップの欠如などが「弱み」として挙げられている。また社会的関係資本の多い地域では犯罪なども少ないとされる。互いのつながりが強い地域に犯罪を指向する者は入り込みにくいのである。この点から「弱み」として挙げられている犯罪率の高さ、交通事故率の高さは、ソーシャルキャピタルの低さを示すものである可能性は高いので、注意は必要であろう。

（田端和彦 久井志保）

